

The Hop Step Times

October 2024

The Introduction of GROUP PRESENTATION (トレジャーハンター v s リアル脱出ゲーム)

グループプレゼンとは、1か月間のグループワークを通して自身の思考の癖を見つけ、他者からのフィードバックにより自己理解を深めるプログラムである。

8月のテーマは「JOYお楽しみプログラム企画」である。ほっぷが企画・運営会社となり、院内にある「児童・思春期デイケアJOY」を利用している子供達が「思い出に残る体験」をコンセプトに企画を提案し、ポスターと企画書にまとめるものである。

2グループに分かれて活動を始め、お楽しみ内容を検討した。それぞれのグループリーダーが上司役スタッフ（以下、上司）へ検討した内容を確認しにいった。上司から「お楽しみ内容を先に検討するのではなく、JOYを利用する子供達にプログラムを通じてどんなことを得てもらうのか、まずは目的をしっかりと立ててほしい」との指示がなされた。リーダーはグループメンバーに上司からの指示を伝え、グループ内で目的を練り直した。両グループとも、練り直した目的を上司へ確認するも、なかなか承認が得られなかった。

ここで一方のグループの出来事を紹介する。子供達が喜ぶものをと意気込んでいたリーダーA氏は、この状況に「出鼻をくじかれた気持ち」と漏らした。また、自身のグループ内メンバーの休みが重なり「メンバーは自分含めて実質2人なのに、このままでは納期に間に合わない」と焦りを感じていた。子供達が必要としていることは何だろうか、且つ子供達に楽しんでもらえるものは何だろうか、グループ内で必死に考えた。苦労の末、「団体競技の協力する機会の中で、他者とつながる楽しさ・大切さを感じてもらいたい、周りの意見を聞きつつ自分の思った事を相手に伝える重要性を感じてもらいたい」という狙い・目的が認められ、ポスター・企画書作成に着手することができた。企画書は、別紙を付けて解説するほど熱意にあふれた素晴らしいものに仕上がった。A氏が手応えのあるこれらを上司へ提出したのは、納品期限30分前であった。「ようやく仕事が終わる!」と安堵にひたる自分を頭に浮かべ思わず笑みがこぼれた。しかし、上司はA氏の笑みをかき消すかのように、「修正してください」と言い

放った。「えっ?」と驚きがA氏の心の中に響き渡った。上司が修正理由を説明した。「このポスターだと何をやるのか分からない。一言でもよいのでどんなことをやるのかを入れてほしい」。企画書に求められる狙い・目的に注力し過ぎていたため、ポスターに求められる目的が少々疎かになってしまったようである。A氏は席に戻り、状況をメンバーに話した。残り30分、焦る気持ちが個々の口調を早くした。メンバーで手分けして修正作業を行い、無事に納品を終えることができた。

できあがった企画を紹介する。A氏グループは「トレジャーハンター」でピンポン玉運びリレー等のミニゲームを協力してクリアしお宝をゲットするもの、もう一方のグループは「リアル脱出ゲーム」で協力して謎解きし閉じ込められた部屋から脱出するものである。果たして、どちらの企画が勝利するのか?勝敗を決めるのは、ポスターによるJOY子供達の投票である。

納品1週間後に投票結果が発表された。トレジャーハンター7票、リアル脱出ゲーム13票で、リアル脱出ゲームが勝利、「どちらも好評だったが、謎解きが好きだった」と勝因が述べられた。

A氏グループはポスターを急いで修正したあまり「どうすれば興味を引けたのか?」という子供達視点の検討が不十分になってしまったかもしれない、と筆者は推測する。両グループともに「子供達にとって必要な目的」を考える工程を繰り返し経たことで、相手の立場に立って物事を考えることが大切であることを痛感したと思う。筆者も、この貴重な経験を忘れずプログラムに取り組み復職を目指したい。



A氏グループポスター（左）と採用グループポスター（右）

The Introduction of Program (服装への気配りからの学び)

8月23日、ほっぷのプログラムの一つであるアピアランス講座が実施された。これは利用者の身だしなみを整え、社会復帰時の第一印象向上のための有益な情報取得や見識を広めることを目的に、外部の方をお招きして講座を開いてもらうプログラムである。今回は「洋服の青山」の方に来ていただき、TPOに合わせた身だしなみについて講義していただいた。

講義内容はスーツスタイルでのジャストフィットの見極め方や、クールビズなどの正しいオフィスカジュアル、スーツのお手入れ方法などであった。お手入れについては休職中の利用者でも今すぐ実施でき、参考となるものであった。

特に筆者自身が興味を持ったのは「クールビズなどの正しいオフィスカジュアル」である。筆者はオフィスカジュアルと呼ばれる服装をあまり理解できておらず、とりあえずワイシャツとスーツを着ておこうと思って今まで着用していた。今回の講義では、マネキンを使用しながら、Tシャツでも上にジャケットを着ればフォーマル度が上がり、オフィスカジュアルなものとなることが示された。実際に自分の目で見たことで、オフィスカジュアルに対する興味や理解をより深められたと感じた。



アピアランス講座の様子

The Introduction of Program (お楽しみプログラム開催!)

8月某日、一般コースとサポートコースの合同で「お楽しみプログラム」が実施された。予定表にはそのプログラム名だけが記載されており、詳細は明かされていなかった。そのため、多くの参加者が期待と不安を抱いて当日を迎えた。

その気になる内容は、「トランプゲーム大会」であった。参加者は4~5名のチームに分けられ、実施される複数のゲームに対して、それぞれ異なる代表者を選出して挑むチーム対抗戦である。七並べ、大富豪、ブラックジャック、ババ抜き、最後に参加者全員での神経衰弱と計5つのゲームが実施された。

一般コースとサポートコースの合同ということもあり、チームメイト全員が普段交流のある顔ぶれという状況ではなかったものの、参加者全員が大いに楽しみ、盛り上がる様子が見受けられた。所属や世代がバラバラな集団が、一丸となって楽しむことができていたといえる。復職後においても、自社内で交流を深めるための選択肢の一つとして、こうしたレクリエーションが有効であるということを体で感じる事ができ、大変有意義な時間となった。



お楽しみプログラムの様子

The Message from GRADUATES (千里の道も一歩から)

本紙は某日B氏にアンケートを実施した。B氏は約1年5ヶ月通所したほっぷを卒業した。本記事ではアンケートを抜粋し紹介する。

Q1. あなたにとって良かったプログラムを教えてください。

A1. 「テイクアウトカフェ企画」リーダーとしての心構えや大変さを知ることができた。仕事でのやりがいや気を付けることを認識できた。

「ウォーキング」散歩の良さを知れた。

「リラクゼーション」瞑想やヨガの良さを知れた。

Q2. ほっぷ通所前と現在とで、変わったなと思う自分の行動や考え方、気づいたこと等あれば教えてください。

A2. 色々なものに興味を持てるようになった。以前よりは客観的に自分

を見れるようになった。生活リズムが改善した。

Q3. もし、休職前の自分に一言声をかけるなら、どんな言葉をかけますか?

A3. 『本当になんとかなるから、生きるのを諦めないでね。』

Q4. 最後に、残されるメンバーにメッセージをお願いします。

A4. 慌てないで、今日を生きましょう。『千里の道も一歩から』です。今日までありがとうございました。

ほっぷに通所され、「テイクアウトカフェ企画」という、少人数、長時間の企画でリーダーを務め、持ち前の実直さで企画を成功に導いたB氏。責任ある立場を完遂した経験は、卒業された今後において大いに活かされるだろう。B氏の今後のご活躍を祈る。